

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム ハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地4		
自己評価作成日	平成23年8月20日	評価結果市町村受理日	平成23年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170200485&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームハートフルでは、職員・家族・併設施設・協力医との連携強化に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族 ……日々の情報交換に努め「安心できる生活の場作り」を『共に』創出している。 ・併設施設……行事での交流や利用者情報の共有を通じて共に活動の理解を深めている。 ・協力医 ……24時間・365日連絡体制を整備。体調不良時や緊急時の往診等に対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>特別養護老人ホームと同一敷地内に隣接する平屋のホームで、施設とは容易に行き来ができる。玄関前は芝生が広がり、物干し台が置かれ、畑にはネギやサツマイモが植えられ生活の営みが垣間見られる。裏手には桜並木があり、四季折々の季節を感じる事が出来、居間からは利用者が置いた果物に鳥が訪れている姿を眺めることができる。屋内は安全と清潔に配慮され、高齢者中心の暮らしが感じられる。職員は、研修、会議を重ね、管理者を中心に、より良いケアを目指し、専門職としての意識が高い。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「福祉の原点は、サービスである。サービスに徹する」の基本理念の元、部門目標を設定し、各自が個人目標を持ち、実践出来る様、年2回目標に対しての振り返り・面談をしながら理念を共有している。	「わははっと笑って、まめなかな？」と9名が一つの家族として過ごせるようにとの思いを込めて、ホーム独自の理念をたてている。「まめなかな」通信の発行も試みている。	この思わず微笑みたくなる理念が、折に触れ、誰もが目にし、共有できるよう、標記があるとなお望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアに訪問を依頼。利用者との交流・生活の活性化に向けて活動している。また、運営推進会議開催の際は民生委員に参加を呼びかけ、活動の理解に努める。今年度は活動通信を作成。地域へと発信していけるよう活動を継続中。	地域の事情もあり、地域行事への参加は難しい。そのため、盆踊り、民謡などのボランティアや中学生の職場体験、ガラス磨きなどの受け入れを行い、交流を図っている。小学校の運動会などにも、招待されれば積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元福祉系の大学実習生の受け入れを実施。又、近隣地域の小・中・高等学校よりボランティア活動も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年5回開催。利用者様や御家族も参加して頂き意見を傾聴する機会として活用。同時に「家族会」を開催し、御家族と利用者、職員との交流を図る場としている。	運営推進会議は年5回開催し、内3回は家族会を兼ねている。いずれも保険者である市担当者の出席のもと、多方面からの意見交換と交流の場として活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	5回/年運営推進会議への参加、又家族会行事参加案内を送付している。市担当者の参加により、運営に関わる様々な情報などを得る事ができる。	県グループホーム協議会に籍を置き、年3回開かれる定例会で、市担当者から、法改正・県からの要望・労務管理などの指導及び情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーの設置し、人の往来を把握している。日中は施錠をせず、さりげなく見守る「寄り添うケア」を実践している。	年1回の職員研修を行い、身体拘束廃止に取り組んでいる。また、毎月法人全体で「身体拘束ゼロ委員会」を開き、言葉かけに関しても身体拘束につながらないかなど、不安に感じることを話し合い、職員間の意識の向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットや制度の説明などを玄関に掲示。相談を受ける時は、パンフレットなどを使用して説明している。施設内部・外部研修の実施・参加を推奨。		

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報の共有を目的に、内・外部研修を受け全体会議にて発表している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に事前面接を行い、家族、利用者の不安や要望を伺うと共に十分な説明し、理解・納得を得、御家族に同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に、市役所より介護相談員(2名)の来所がある。利用者とは直接会話を交わして頂き、交流・相談の場として活用している。御家族とは記録帳や定期的な電話報告、また面会時に要望や意見を直接伺っている。	ホーム近郊の利用者が多いため、時折、介護支援専門員が自宅を訪問し、家族と個別に、気軽な意見交換を行っており、管理者に報告し反映している。市の介護相談員が毎月来訪し、1時間程利用者とは話を交わしている。	毎月訪問している介護相談員から、利用者の意見報告がされていない。せっかく、第三者の立場で関わる人の存在があるので、介護相談員が受けた利用者の声も、貴重な声として活用されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回グループホーム会議で、職員より利用者様の状況を取り上げ、討議している。会議内容は議事録として作成。申し送りノート等を活用して、決定事項を確認出来る様に記録している。	毎月の会議で、利用者に対するケアのあり方、ホーム全体での方向性など、職員が抱えている疑問、問題点などを出し合い、安心して勤務できる体制作りを実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、希望休暇の申請が可能(3日以内)。また、法人目標にそった部門目標・個人目標を設定し、各職員の知識・技術力に沿った「やる気」をひきだす取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数に応じた外部研修計画がある。また、毎月一回の内部職員研修の参加により、知識の向上・習得を目指す。業務時間内におけるOJTの実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、意見交換をして交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、利用者・家族がゆっくり話が出る様に傾聴に心掛けている。併設の居宅サービスを利用されていた方は、サービス提供中にグループホームの職員が様子を伺ったり、他職員と情報共有の強化に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時は十分に話を伺い、入所まで期間がある時は、電話などで様子を伺い相談や情報交換に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族のニーズに応じて、併設施設の相談員と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや、季節の食べ物、畑で収穫したやさいを使った食事、週に一度の外出(喫茶店・買い物)などを通じて共に「当たり前の日常生活」を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議委員として参加して頂き、共に利用者様に安心・安全な生活を送って頂ける生活環境づくりに参加していただいている。「家族会」を開催し、意見交換の場として活用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設するサービス利用者であった方には、なじみの人が来所の際に面会し、交流が持てるような場を創出している。また、地域にあるなじみの店・場所を大切に、定期的に訪れる事が出来る様に計画をしている。	自宅に帰っても知り合いはなく、寂しいと訴える利用者もあり、ホームの中で馴染みの関係作りを支援している。自らデイサービスの知り合いと携帯で連絡を取り合い交流する利用者があるなど多様化している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方それぞれの相性や性格を考慮して、食卓の座る場所や居心地のいい場所を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族の方より、「退所後も訪問したい」との申し出を頂いた。退所後も、他の利用者や職員との交流が継続するような配慮を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時や入所に至るまで、また入所後も御家族との面会や電話連絡を実施し、思いや希望を把握するように努めている。また、暫定プランを作成する時にも希望を尊重するよう、情報収集・共有に努めている。	開設から9年が経過し、最長9年になる利用者もいる。利用前と現在では身体状況、意向にも変化があるため、現状把握に努めている。介護支援専門員が家族を訪問し、家族からも本人の意向を聞きだしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時には、特に御家族やご本人より生活歴や趣味嗜好等をじっくり伺い、記録。ケアカンファレンスに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後、暫定プランから本プラン作成までの間に、生活経過記録を記録している。思考・行動把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で、御本人の思いや希望などを伺い、担当者、御家族、ケアマネ、医師とも相談しながら御本人の意見を反映出来るよう個別に検討し、介護計画の作成をしている。	職員が1名ずつの利用者を担当し、細かな状態把握を行い、介護支援専門員に情報を提供している。毎月のケアカンファレンスで話し合い、その都度適切な計画であるか検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリング・カンファレンスを実施。変更点や気づいた点を話し合い、情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の応援を受け、急な受診等に対応している。特養・看護師も、24時間体制にて対応し、部署間の枠を超えた関係を築いている。特別な外出では併設施設の運転手の応援を受けることがある。		

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの活用により、フラダンス・マジックショーなどの講演会を開催。利用者を楽しんでいただけるような機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族の希望に応じ、かかりつけ医の受診希望に対応している。特に無い方には、往診がして頂ける協力医に依頼している。定期受診の際、生活記録を報告。情報の共有に努めている。	8名の利用者は、ホームの協力医をかかりつけ医としている。在宅からのかかりつけ医を引き続き希望している1名の利用者も月2回の往診を受けている利用者の状況はFAXや電話のやり取りで連携し、薬の処方は、定期薬、頓服薬とも担当医から届けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する特養の看護師に情報や気づきを随時報告し、指示を仰いでいる。また、夜間は、看護師との連携により、急変時に十分対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院者が出た場合、管理者または、副主任が1回/週は面会に伺い、家族より状態を聞き、また病院関係者への情報交換を行い、御家族・利用者の相談等に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と24時間・365日の連絡体制を確立。又、併設する特養看護師にも24時間連絡をとれる対応をした。御家族には、夜間付き添い等協力を依頼し、常に協力医、看護師、家族、職員と連携しながら終末期ケア実行の体制を整えている。	契約時に、ホームのケア体制を十分説明し、同法人の特別養護老人ホームの申し込みを同時に依頼している。経口摂取や座位保持が不可能になった場合はホームでの生活は困難と判断している。開設以来2名のターミナルケアを実践しており、重度化に向け体制は整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でのAEDの操作・心配蘇生法訓練の定期開催を実施。また、運営推進会議を活用し、御家族にも定期的に習得できる機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	内部研修や運営推進会議にて避難訓練を実施。実際の訓練を御家族に見学、参加して頂き、緊急時には協力・連携・相談できる体制を整えている。	火災・地震の避難訓練等は、昼夜を想定して実施されている。災害対策として、保存食品の備蓄も検討し、民生委員、自治会長、消防署の相互協力の下、施設を避難場所として提唱している。水害による災害対策も検討を要する。	市町村の土砂災害に対する防災対策の確認、警報等の連携を確立し、ホーム独自のマニュアルを検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格・心情・体調など、個別性を重視した声掛けを行っている。個人情報に関しては、法人が、5大原則を定めている。	日々の生活の中で利用者のプライドを守り、見守りながら待つ支援が行われている。個々の残された機能、能力の重視が職員の対応から感じられる。プライバシーの保護に関しては、法人の指導の下、意識の充実が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、常に御本人の意に添ったケアを心掛けている。また、常にオープンクエッションの声掛けに留意し、利用者中心の生活援助を実践している。利用者の「～したい」を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気や季節、また御本人の体調に応じて意見や希望を傾聴し、個々の「その人らしい生活」を組み立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、訪問美容室を利用して頂いている。衣服も御本人の希望を伺い、御自身を選んで頂いている。重ならないような配慮も心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食事の盛り付け、テーブル拭きなどを行っている。また、食後の後片付け等を行って頂き、「自分の役割づくり」に考慮した支援を実践している。	流しで野菜を洗う人、食事中に手の不自由な人にさりげなく気を使う人、下膳の盆を拭く人、利用者同士の温かさを感じる。食事もゆったりでき、見守り、介助する職員の寄り添う姿勢は見ている気持ちがいい。利用者からは、「この食事は美味しいし、暖かい、食事が楽しみ」との声がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理時には、栄養バランスを考え、献立も同じような物が、重複しないように配慮している。また、個々に合わせて調理方法を工夫し、食べ易い状態を思案・実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の口腔ケアの実施。見守りながら、自身にて行って頂けるように、声掛け・介助を行っている。		

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄のパターンに合わせた時間帯のトイレ誘導を行っている。また、排泄チェック表を活用し、個々の時間・傾向に配慮した体勢を整えている。	自己にてトイレに行ける利用者5名、誘導してのトイレ介助者は2名、居室で対応する利用者は2名と、個々の常態に合わせた排泄支援を行っている。パットの交換を嫌がる利用者も、暖かいタオルで清拭後交換し改善している。排便は、繊維質を多く取り入れるなど食事にも配慮し、コントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立、食材やメニューを考えて提供している。高齢者でも食べ易い形態に配慮し、消化のよい食事を心掛けている。また、犬の散歩や特養への散策、外出など遊びを兼ねた運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、その日の気分や体調で変更し、臨機応変に対応している。また、入浴剤を活用し、「温泉気分」を楽しんで頂いている。	ゆったりした浴槽と介助に十分な洗い場が用意されている。重度化して一般浴槽に入れない利用者は、隣接の特別養護老人ホームの機械浴を使用している。温泉気分が入浴剤を変えたり、ドライブを兼ねて、道の駅の『足湯』を楽しむなど、気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の気分や体調に応じてリクライニングソファにて休息したり、居室で静養して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を職員が管理、医師の指示により適切に配薬して。新しく処方された薬や形態変更においては、本人に随時説明している(一部利用者)。職員間での情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店・買い物・外出などを希望される利用者の方には、定期的な外出支援をしている。また、利用者同士の交流が深まるような場を作り出す工夫をしている(折り紙・塗り絵・体操など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併施設内で行われる定期行事に参加し、利用者同士の交流、生活の活性化を行っている。御家族との相談・協力を得ながら、外出支援を実践している。	日常的にホームで飼っている犬と散歩したり、週に1回喫茶店のモーニングに出かけたり、週に2回食材の買い出しに同伴している。また、大型車を利用できる時は、公園や大型スーパーに出かけ、外出を楽しんでいる。	

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人には管理して頂き、買い物の際は自分で支払って頂いている。また、買い物先では「自分で選ぶ喜び」を優先し、本人の希望を傾聴している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の都合・要望を入所時に伺い、機会に応じて電話をかけさせて頂いている。また、ご家族から届いた手紙は、職員が読み聞かせを行うなど、交流の機会に活用させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造作りでフロアが広く、自らがお気に入りの場所でゆっくりと過せるような配慮を行っている。自然に囲まれた環境で、四季折々を味わいながら暮らすことができる。	屋内全体が広々し、開放感と優しいひかりに包まれている。廊下の幅は車イス同士がすれ違えるほどの広さがあり、手すりが取り付けられている。3ヶ所あるトイレは車イスの乗り入れでもゆとりがあり、清潔で使いやすい。台所は、居間が見守られるよう配置され、使いやすく出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内には、ソファや椅子が、点在しており、自分の好きな場所で好きな時に、気の合う仲間と自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所された方には、家で使用していた愛用の身の回り品を持参していただいている。本人が落ち着ける空間作りを心掛けている。	広い間取りと庭に出られる大きなガラス戸が目目を引く。洗面台、木製の電動ベッド、クローゼット、2人用ソファが用意されている。整理筆筒やテレビを置くなど利用者と家族が個々の部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゆっくり、優しく、声掛けをしている。御本人の目線・意欲、能力に合わせた環境を整えて、自立した生活が送れるよう支援している。		